

【足立区地域自立支援協議会こども部会】会議概要

会 議 名	平成30年度 第3回 【足立区地域自立支援協議会こども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	平成30年11月12日（月）
開催時間	午後2時00分 ～ 午後4時00分
開催場所	障がい福祉センター 研修室3
出席者	別紙のとおり
欠席者	別紙のとおり
会議次第	<p style="text-align: center;">次第</p> 1 開会 事務局より 2 議事 (1) 部会長挨拶 (2) 課題について (3) 協議（意見交換） 3 事務連絡 (1) 第4回子ども部会について (2) その他
資 料	平成30年度足立区地域自立支援協議会第3回こども部会次第 第2回足立区地域自立支援協議会こども部会議事録（公開用） 第2回こども部会で出された3つの課題のまとめ（事務局） 区内幼稚園・保育園等在籍園児数（こども支援センターげんき） 足立区副籍状況（都立葛飾ろう学校） 平成30年度足立区立小学校特別支援学級児童数（梅田委員）*終了後回収 育ちの気になる子の発達支援における基本課題とそれらの関係樹図 文部科学省 特別支援教育の対象の概念図 地域における「縦横連携」のイメージ （加藤部会長）
そ の 他	

様式第2号（第3条関係）

（協議経過）

1. 事務局より

（1）司会（勝田 あしすと）より挨拶
みなさんこんにちは。本日はお忙しい中
ご足労いただきましてありがとうございます。
ご足労いただきましてありがとうございます。

課題の提出もありがとうございました。

—資料確認—

委員の皆様から提出いただいた課題はA
3・1枚にまとめさせていただいています。
議事録作成のため、録音しておりますが、
発言の際、お名前をおっしゃっていただき
たいと思います。

では第3回部会を開始します。

（2）所長挨拶（宮田 あしすと）

みなさんこんにちは。お忙しい中3回目
の部会にお越しいただきありがとうございます。
子どもの部会の課題は多岐にわたっ
ています。活発な議論が出来ていると思
います。よろしくお祈りします。

2. 議事

（1）部会長挨拶

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

本日もお集まりいただきありがとうございます。
こういう場は年に2回くらいが通
例だが、足立に限らないが、子どもは様々な
課題を抱えているエリアでもあり、子ども
たちが安全に成長していくための課題は山
積している。毎回自分たちが考えたことを
共有し、それを踏まえ議論を積み上げて、最
最終的に1年間こういうことをやると次に
つながるといいと思っている。

今年度は、12月19日と年明け2月5
日で、計5回開催する。

今のところ、やってきたことは17名の
委員が、それぞれの業種、背景を背負い参加
いただいているので、積極的にご発言いた
だき、特にご自身の業種の子どもに関わる
課題を出してもらってきた。とりあえず優
先順位として大きな課題を3つあげてもら
う形で推移している。それらの中身を、事務
局でまとめていただいたものを配布してい
る。それぞれの発言内容をマトリックスに
しているので、この時間でご自分の発言の
中身を確認していただきたい。

第一回来られてその後来ていない方もい
るようなので、その方をどうするか。今日は
11名出席だが、表に名前がのっていない
方はどうするか。例えば児相、梅田委員（事
務局より本日出席予定）葛飾ろう学校（本日
代理で倉持氏出席）、城北分園は課題がまだ
出ていないが、どうするか。区から任命い
ただいている委員か。

○宮田委員（あしすと）

案内は出しているが、欠席の連絡だ。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

来ていない方は組織の都合等か。

○事務局勝田

欠席理由まではお聞きしていない。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

スタンスがわからないが、そういう状況
だ。ご自分のところに目を通していただ
き、大きなブレがなければ、よいかと思う。
ブレがあるようなら確認したいが、よいか。

もう一つ、今年度5回と申し上げたが、任
期は？

○宮田委員（あしすと）

2年だ。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

ではテーマは継続して構わないか。

○宮田委員（あしすと）

はい。ただ一度報告書は本会議にあげる。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

ではよろしいか。このあと、中盤からその話に戻りたい。

（２）課題について

冒頭いくつか資料が配布されている。先ほど確認したが、これについて若干補足説明等必要と思うので、それぞれ説明をお願いしたい。

まず梅田委員をお願いします

○梅田委員（西伊興小学校）

足立区立小学校の特別支援学級（知的障がい・固定制）がある19校の、5月現在の資料だ。今、例えば西伊興小は3学級で24名が在籍しマックス（定員の上限）、こういう学校が増えている。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

質問等あるか。

教員数は？

○梅田委員（西伊興小学校）

学級数プラス1名だ。

特別支援教室は、今年度からすべての小学校に設置された。

○上遠野委員（こども支援センターげんき）

全69校。直近で、ご利用されている児童が1,595人、年々増えている状況だ。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

子どもの数は、全校児童数に比例しているとか、大きい学校に多いということはあるか。

○上遠野委員（こども支援センターげんき）

全体的には増えているというわけではない。特別支援学級があるのは小学校では19校のため、学区域の学校にない場合は近くの設置校に行くことになるが、学区域が

ないので、希望者が集中した場合は、現在は抽選となっている。学校により、学級数が2クラス、3クラスと決まっているので超える人数は受け入れられない状況となっている。

通常より遠くの学校に通う方が出てきており、対応が必要と考えている。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

葛飾ろう学校をお願いします。

○倉持代理委員（葛飾ろう学校）

副籍状況、足立区在住に限り載せている。基本的に直接交流、間接交流、学籍のみとなるが、葛飾ろう学校では、重度養護施設の金町学園の生徒が多数通っている関係で、住所・氏名等公表できない方は「交流なし」に数字としてはいつている。こういう表をつくりながら、直接交流について、直接交流に行こうとすると手話通訳があったほうがいいとなるが、区によって通訳制度がいろいろで、足立区は、学校行事なので学校で通訳を立ててほしいという話なる。学校から都に確認したところ、交流校が通訳を呼ぶとなっているが、学校側としては副籍の方に全員通訳を呼ぶ予算もなく、もっと通訳を呼べたらというところで困っている。

○上遠野委員（こども支援センターげんき）

確かに今までもそういう状況だったが、差別解消法の関係もあり、今年度途中から足立区でも必要なときにお呼びできるようになった。学校の方からデフサポートをお願いして呼べるようになってきている。きちんと連絡がいつていないかもしれない。

○倉持代理委員（葛飾ろう学校）

ありがとうございます。それと交流校に通訳さんを配置してもらう、（交流の）最初の1回、2回がうまくいかないと、その後が

うまくいかないのでは、ろう学校側から要請できるとありがたい。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

近隣の区はどうか。例えば葛飾区は。

○倉持代理委員（葛飾ろう学校）

葛飾区は聾者からの依頼は行ってくれる。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

墨田区、荒川区は？

○倉持代理委員（葛飾ろう学校）

墨田区は似ている。荒川区は人手があれば、と通訳登録の数が少ないので、人が少なくて調整できないかといった依頼があるときがある。副籍の状況は以上だ。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

前回の宿題で在籍園児数については？

○長谷川オブザーバ（げんき）

幼稚園にどれくらい困り感があるかというところから出てきたものだ。幼稚園・保育園等となっている。私立幼稚園については、げんきの教育相談課でおこなっている、私立幼稚園カウンセラー事業の昨年度の数字だ。現状の数として報告する。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

加算の数等は？

○長谷川オブザーバ（げんき）

東京都が把握していて確認が難しい状況だ。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

私が配布した資料だが、3種類用意させていただいた。一つはリンゴの木、これは私の自前で作ったポンチ絵、発達支援は何をするところか、いろいろな人たちに説明する際に1枚の絵でおおまかなアウトラインがわかってもらえるよう作ったものだ。リンゴが子どもと想定して、甘くおおきく育てほしいと。そのために葉は、幹は、根は

と。子どもが子どもらしく健やかに成長するためにどんな課題があるかと。りんごばかりいじりまわしていればりんごは落ちこちってしまうので、諸制度などで思いを積み上げていなかいとだめだろうと。常に子どものことを専門の立場から考えるが、専門の領域は狭いのでそのことばかりでなく、地域での暮らしなどをいつも考えながらの視点が大事だろうと思う。

もう一つは文部科学省が毎年出しているデータだ。平成28年5月1日のもので、今のところ29年のものは見つけていない。特別支援学校の同世代の子ども、直近のデータでは、3.88%でこの割合が増え続けている。一方同世代の子どもの数は、減り続けている。発達障がいの可能性のある児童・生徒の割合が6.5%というのも、文部科学省のデータだ。これを足すと1割を超える。毎年同世代の1割の子どもが何らかの支援を必要していることが、わが国にはデータ的に存在しているわけだ。足立区の出生数が年間5,000人としたら、500人、単純に考えればだが、そういう数字をある程度想定しながら、子どもの幸せを考えていかないと現実とフィットしない。今、子どもたちがこの数字とどういう関係があるのか、あふれでた子どもたちがどうしているか。本人が一番困り感をもって生活していると思うが、周辺の家族などもストレスを抱えながらの生活を余儀なくされている。そういう環境で、二次的三次的な障がい心配される。何らかの対応から漏れてしまっている子どもたちがどうなっているか。子どもにとってハッピーな状況ではないだろうと。1割、その半分でも250人なので、どれくらいの子供たちがこういう状況にあ

るのか考えていなくてはと思う。

3枚目、平成26年に障がい支援のあり方検討委員会で検討した報告書、70ページくらいのものだが、それをポンチ絵にしたものだ。わたくし的には子どものことをベースにしたイメージ図だが、学齢期、青年期を含めた、ライフステージを支えるシステムとして、今のところもっともわかりやすいものではないかと思う。学校の先生、これを見たことはあるか。(学校の委員うなづいている様子あり)

結局わが国が考えている障がい施策はこのポンチ絵に沿っていると思われること、当面これが手掛かりになるというか参考になる考え方ではないかと思う。本人・家族を中心にして、相談支援がしっかりと寄り添いながら、地域の中で、それぞれのステージにきちんと地域の中で生活しながら成長していく形だ。それぞれのステージ固有の支援機関もまわりにはある。この部会ももちろん子どものことを考えるわけだが、ある程度先を見通しての子どもたち、我々の漕いでいる船がどこにつけようとしているのかをある程度分かりながら、先のことを少し考えながらが大事かと思う。特に、この検討会で私は主張したのが、気づきの段階の支援だ。個人的にも乳児期のことを長くやっているし、経験の中から、時期的にはグレーゾーン、はっきりしない、保護者も認めたくない中で行きつ戻りつするなかで、様々な制度を前提としてサービスを組み立ててしまうと、本当に必要な人がそこからはみ出してしまうリスクもある。手帳がなかったりしても子育てに不安などがあればいつでも対応できることが、早期の段階では必要だろう。基本相談、実は乳児期の子どもの相

談にお金がついていない。小さな子どもたちには、相談にものすごい時間とエネルギーを使う。ここに全く単価が付いてこない話になっていて、これについては子ども関係者の我々は、国にも強く訴えているところだ。いずれにせよ、気づきの段階からという言葉をいれていただいたのが、このポンチ絵の画期的なところかと思う。平成26年からなので、まだ時間が浅いので、全国的に浸透しているとはいかないと思うが、国レベルでのコンセンサスを得ているのでこれから浸透していくかと思う。

もう一つ、国では家族、教育、福祉のトライアングルプロジェクトが始まっている。当時は文部科学省、厚生労働省の副大臣が一緒になって始まったが、途中からうやむやになっていて、また最近復活は始めている。それにあわせて考えたとき、領域が足りないのではないかと。これは来年に向けてでいいと思うが、保健関係者、母子保健、保健医療、その人たちも子どものことを議論するときにおられたほうがいいと思う。先日愛媛県松山市で会議があり、松山市は人口50万人で保健所が1か所。足立区は保健せんたーが5カ所。数的にはきめこまやかと思うが、一方で育ちにくさなどで保健師がコミットされていることが現実結構ある。そういう人たちとの連携、情報交換、ケース検討など行っていることを考えると、この場に参加してほしい。

○宮田委員(あしすと)

いつでも呼ぶことはできる。

○加藤部会長(うめだあけぼの学園)

保健関係の方が来れば、違った情報や、経過として、日常のなかで、もっと保健師と緊密な連携ができるきっかけになるので、参

画できるとよいと思う。

もうひとつ、通常学級の中に発達障がい
の可能性のある児童・生徒が6.5%いると
考えると、学校もいま通常学級のなかで困
り感をお持ちの先生方がいる。そこはどう
なっているか。一方で保育所等訪問支援事
業がある。教育と福祉の連携を考えたとき、
通常学校の対応がうまくいっていない。現
実的にはハードルが高い。そういう意味で
いくと、地域の子どもがどこで学んでいよ
うが、支援を差し伸べることが出来るとこ
ろで、出来る対応をと考えるとニーズはか
なりある。校長先生は、校内委員会があるの
で大丈夫ですと言うが、現実には保護者が
泣いて訴えてくることもある。認識のずれ、
ネガティブな印象を与えているのではない
か。通常学級の先生方も入っていただい
てもいいのでないか。

学校の管理者の問題、学級の困り感を自
己完結させてしまうところがあって、管理
職の姿勢が問題ではと教育長に直訴したこ
とがあったが、途中で頓挫してしまった。未
だに私はあるような気がする。いろいろな
意味で風通しのいい教育連携ができたらと
思う。解決しようとする雰囲気が出来上が
ると思う。オールマイティな方はいないので、
いろいろな方が集まり、できるところから
できることをやっていくしかないのでは
ないか。

資料はまだあるので、参考になりそうな
ものはまた持ってくる。

○上遠野委員（こども支援センターげんき）

先ほど文部科学省の調査で6.5%の話
があったが、特別支援教室の利用児童数は、
足立区全体の5%程度になる。教室をつく
ることで、5%程度は指導につながるよう

な状況になっている。利用も広がってきて、
少しずつ理解が広がってきていると思う。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

今年が小学校全校配置の最初の年、6.
5%の子どもたち、何らかの手立てと始ま
った施策として評価している。

今までの前半の話で何かご意見等あるか。

教育の方ではこれ（特別支援教育対象の
概念図）はよく目にする。29年版が欲しい
が。いずれにしても公的な数字だ。

ぜひ保健師、精神保健関係の方をお願い
したい。

では、第2回の発言を事務局でまとめた
資料、課題を3つに絞り込んである。

○勝田（あしすと）

一つ訂正がある。清水委員、幼稚園となっ
ているが、正しくは保育園だ。

（3）協議（意見交換）

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

これを見て、この場で検討したほうがい
いことをここから搾りだして具体化してい
けたらと思う。当面、この部会としての総意
を作り上げて次回につなげたい。寺山委員
いかがか。

○寺山委員（足立つくし幼稚園）

狩野委員、古里委員の課題で不登校とい
う言葉がでてくる。支援児でない不登校の
子は主任児童委員が調整している。特別支
援学校、特別支援学級は学区外の子がいて
難しいと思うが、民生委員、児童委員の関
わりもできるかと思う。

見ているといくつかのグループに分けら
れる。

○渡辺義也委員（興野保育園）

私も保健師の存在が大事だと思う。地域
保健係の保健師が、地域の調整役をしてい

る。

私は、学校の図書館ボランティアをしている。その学校では、クラスに一人二人必ずグレーゾーンの子がいて、外に出ることなく担任の先生が困っているという状況がある。それから、それを自己完結して何もないように済ませている現状もある。その辺を考えていきたい。それともう少し分析するといくつかの課題、保護者支援などと思うので、それは施設側、保育園だと園の体質で理解、やり方も違うので、もう少し、広く理解できるようにならないか。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

図書館ボランティアは何をやっているのか。

○渡辺義也委員（興野保育園）

学校によって違うが、私が行っているところは週に1回、読み聞かせをしている。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

松永委員お願いします。

○松永委員（北千住すてっぷ）

相談先がわからない点が結構ある。僕らでも結構迷うことがある。色々なことを相談しやすい場所、世田谷のネウボラもその一つでモデルがあると参考になるかと。それがあると我々もやりやすい。

それと別に事業者の連携、同じ領域だけでなく、他の領域も非常にやりやすくなる。これを拝見するとまとまってきたと思う。

家族支援は専門性をもってどのように対応していくかは課題だ。

○渡辺直子委員（ネットワークキング）

ネットワークキングでも、困り感のある子どもを孤立させないことが大事と考えている。あとは障がい受容が出来ていない方が

必要な支援が受けられず孤立感につながっていると思う。

○狩野委員（鹿浜菜の花中学校）

横のつながりを強くしながら、情報をもっと広げていける体制ができたと思う。学校の立場ではこのあたりが弱く、自己完結しているように見られてしまうところがある。中学校も来年度から特別支援教室を開始する。支援が必要な子どもをピックアップして家庭に連絡しても、うちの子どもは違いますといわれ、つながらない現状があるのも事実だ。障がい理解、どうやって支援していくかがまだまだ足りないところがある。通常学級の担任の先生も保護者にどう伝えるかなど難しいところがあると思う。

○梅田委員（西伊興小学校）

同じように校内委員会で、保護者に行ったほうがいいのかといっても、受け入れない保護者もいる。特別支援学級でどんなことをやっているかということを開発していく必要があると思う。

それと放課後等デイサービス（以下「デイ」）を利用している方が多い。中学の特別支援学級は、自力通学が基本。少しずつステップを設けていたが、デイの送迎に頼る保護者が出てきている。デイもいろいろなサービスを用意しているところもあるが、ここに書かれていることを話し合うのはいいと思う。

もうひとつ、介助員の人数、他区は教員と同じくらいの人数のところもあると聞いているが足立区は少ないと思う。

○清水委員（区立梅田保育園）

課題としてここにあげたが、この会議に出るたびに考えさせられ、また課題が増えているという思いがある。支援児は他機関

との連携が欠かせず、他機関の専門性を発揮しながら、子どもと保護者を支えていくことになる。いま支援児を就学にむけてつなぐ連携をしているが、そのなかで、保育園が他機関を知るということが大事。いろいろな機関がかかわっているこの部会の重要性があると思っている。もっと知っていかないといけないと思う。

それと第一回るとき、江黒委員の話を聞いて支援児の課題、特別支援学校で自立に向けて、地域で生活していく、(通学も)バスに乗っていかず、地域で育てたい、子どもの課題、トライアングルプロジェクトがどういう方向にいくか関心をもって、学んでいきたいと感じている。

あと、31年度の入所で、発達支援児の保護者の方が施設見学に来るが、寺山委員の課題で、結構はっきりと、先日も、幼稚園でみきれないので公立保育園でみてもらいたい、という話があった。まずは施設見学をというところで話をしたが、31年度4月入所希望かと聞くと、すぐに入りたいと。私としては衝撃的だった。幼稚園とも連携していけるとよい。

○寺山委員 (足立つくし幼稚園)

実は私の幼稚園でも、他の幼稚園で年中には入れられないとのことで、入れてもらえないか、という話がある。財源がない、人手不足で十分なケアができない、うちでは面倒見切れないとおっしゃるところがある。うちの幼稚園では年中からは担任一人で、言葉の指示だけでフォローできないお子さんは難しくなる。でもほかの幼稚園も同様で、みたくてもみられない。保育園は加配がつくから大丈夫と。それで保育園に、という話につながっていると思う。あなたは幼稚

園でなく保育園へとわれ、(入園等)対応できるのか。

○長谷川オブザーバ (げんき)

保育園は、制度的に保育に欠ける状況がないと申し込みはできない。保護者が働くなど、保育園に入るならそれなりの対応が必要だ。

○寺山委員 (足立つくし幼稚園)

お母さんたちにきくと、保育園に入りたから、パートでも、と。基準がさがってきている。

○長谷川オブザーバ (げんき)

今は公立園も駅から遠い園などは比較的空いているが、発達支援児の対応ができるかは難しいところがある。

○寺山委員 (足立つくし幼稚園)

幼稚園としては、支援が必要な子がいたときに、どうしていいかわからない状況がある。私はあけぼの、あしすと等に聞いているが、そういうことをしないところも多い。知らないから、そういうことをする立場でないと思っているからかと。

○梅田委員 (西伊興小学校)

職員一人一人のスキルアップ、支援の必要なお子さんを預かることでスキルも上がる。それでいて集団、いろいろな工夫等職員自体がかわってくると感じている。

○加藤部会長 (うめだあけぼの学園)

理想的にはそこに適切なスーパーバイザーがいるとよい。一方でしんどくて、スタッフがつぶれてしまうこともあるので。

○倉持代理委員 (葛飾ろう学校)

前回出席出来なかったが、多くは他の委員が言っていることと同じ。

学校で困っているのが、一つは障がい理解。制度はあるが、中身を詰めることがない

まま交流会などを行うことが多発している。お互いに忙しい中、とにかくやらなくては、と障がい理解の機会を生かし切れていない。聴覚障がいとほかの障がいの重複の方が増えているが、必要十分な対応が難しいことが出てきている。重複課程を希望する方が希望する通りにできるようにしないとけない。

表を見ての感想としては、課題等は一緒だが、自分が思うのと保護者の立場の内容が同じように理解できるようになるといいと思う。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

手話文化、もう少し日常的にしてやっていると、案外そのあたりの文化が普及するかと思う。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

色々な場所でいろいろな課題。解決の糸口、連携、つながる人たちが忙しすぎてしまう。特別支援学級と支援学校、連続体で連携できるといいが、10年前に比べればコーディネータが機能していると思うが、今後コーディネータ的役割をする人をきちんと育てていかないとつないでいくことが難しい。足立区内のコーディネータが一堂に会する機会などがあるといいと思う。どうやってつないでいくか考えていくことが大事だ。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

これは足立区のなかで決められることか？

○梅田委員（西伊興小学校）

放課後は研究会等があり、物理的に無理かと思う。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

物理的にできない状況もあり、どうして

いいかもわからない。

○林田委員（城北特別支援学校）

今の話、そうだ、と思って聞いていた。私も学校の中のコーディネータであるとともに地域のコーディネータと二重の側面があり、どういう立ち位置か考えてもらえるといいと思う。この表をみたとき、保健師連携は大事だと思う。保健センターの思春期ネットワークがあるが、こういう場がすごく大事だと思う。いろいろなところからむ大事な存在だ。

支援に結びつかない子がどうなるのか気になる。気づけるよう、先生の研修があるとよい。1・2年製は通常学級で行けても、3・4年生でついていけなくなる子がいる。そういうとき見直しをしていくべきという話が出るが、制度としてできていない。学校に入ったあとも、その子の学ぶべき場はどこがいいのか考えることが必要だ。担任、学校、違う立場の人が見るなどが必要だと思う。

○上遠野委員（こども支援センターげんき）

今の話で、今年判断と異なる就学をしたお子さんを指導主事にみてもらうことを始めたところだ。学年が進むと難しくなるのがわかるので、仕組みとしては動き出したばかりだが、ぜひとりくんでいきたいと思う。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

制度ができて100点満点はありえない。制度をどう育てていくかも関係者役割があると思う。

○竹内委員（肢体不自由児者父母の会）

当事者、家族支援が一番。それぞれからあがってくる困りごとは、親や子どもの相談とすると窓口がはっきりしていなことが見

えてくる。コーディネータの役目、つなぐ役目もその部分ではかかわってくる。地域とのかかわり、加藤先生が言われた、保健師の方、どうかかわるかと言おうと思っていた。私たちも生まれた子どもをどこに連れていくか、保健センターの健診で障がいや発達の遅れを見つけてもらっている。うちの子は2歳で急性脳症で途中で障がいを持ったが、その後健診することもなくなり、地域とのつながりが全くなくなったと感じている。健診の通知もないうちの子に健診内容もあわない。今、実際にお子さんがどうつながるか。肢体不自由児は予防接種も病院で行うことが多い。地域の中でつながる部分では、母子保健のところ、それと医療、地域の医療にどうかかわるか、が保護者の不安感を取り除ける要素となると思う。医療のつながりについて、誰がどのように、役目をもっているのか親としては知りたいところがある。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

とりもちは理想的には相談支援専門員か。

○竹内委員（肢体不自由児者父母の会）

つながっていない、つながり方を知らない保護者が多い。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

たくさんの制度仕組みがあるのに、そこにつながっていないもどかしさがある。

余談だが足立区に大学病院がやってくるので、うまく連携できたらいいなと思う。

○江黒委員（手をつなぐ親の会）

本当に乳幼児、学齢期、障がいの段階、乳幼児だと少し遅れているだけかなと、学齢期、最初は通常学級でやっていけても、3・4年生になってついていけないけれど、認められない。ほかの同級生のお母さんたち

から話が出たり等、3・4年生あたりが第二の気づきのポイントみたいなどころがあって、この時どう学校側が対応できるかが課題かと思う。早期発見というところでは気づきの段階は大きくて、診断書、手帳だけでは測れないグレーなお子さん、保健師は、健診・訪問で様子を見ることが出来る。訪問では家庭環境も見られる。家族支援、子ども支援の必要も気づけるポイントになると思う。乳幼児期から学齢期、継続してきちんとつなげていくか、周りがどう支援していけるかが、大きなところだと思う。学校側と保護者側の意見が合わないのは私もよく聞く。その時の説明の仕方も問題があると思う。先生方ももう少し寄り添って、こういう形で支援できる、教えられる等、わかりやすく説明すると、理解もできる。一方的に言われると耳を塞いでしまう。寄り添いは加減が難しいが、先生としての質の問題もかかわってくると思う。センター校の南花畑特別支援学校の役割は大きいと思う。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

ちょうど時間になりった。皆さんお気づきのように、それぞれの領域では共有できているとは思いますが、言ったり聞いたりする場がないと思う。話甲斐があるし、聞き甲斐がある。この場で地域のあれやこれやが共有できると思う。

今後よろしくお願ひしたい。

次回、事務局からもあると思うが、今日のマトリックスにいくつかあぶりだされているテーマがある。次回改めて触れることにして、もう少し具体的に議論していきたい。たくさんの意見ありがとうございます。

3. 事務連絡

(1) 第4回こども部会について

○事務局勝田

それでは時間となりましたので、部会の議事録はまた確認いただいております。

次回、第4回こども部会は12月19日(水)14時から同じくこちらで行う。ご参加をお願いします。5回目は2月5日(火)です。

○清水委員(区立梅田保育園)

4回、5回の部会が業務とぶつかっております。残念ながら欠席させていただきます。

事務局勝田

以上をもちまして終了いたします。